

2.3 自然環境の特性

中城湾港泡瀬地区では、平成2年度から平成15年度にかけて環境関連調査等が行われ、陸上動植物、海生生物、水質等の既存データが集積されており、これらデータを活用し今後の比屋根湿地・泡瀬地区海岸の整備や方策を検討するにあたり、その前提条件となる湿地・海岸域の現況について把握する。

(1) 陸上生物

1) 鳥類

① 既存調査結果

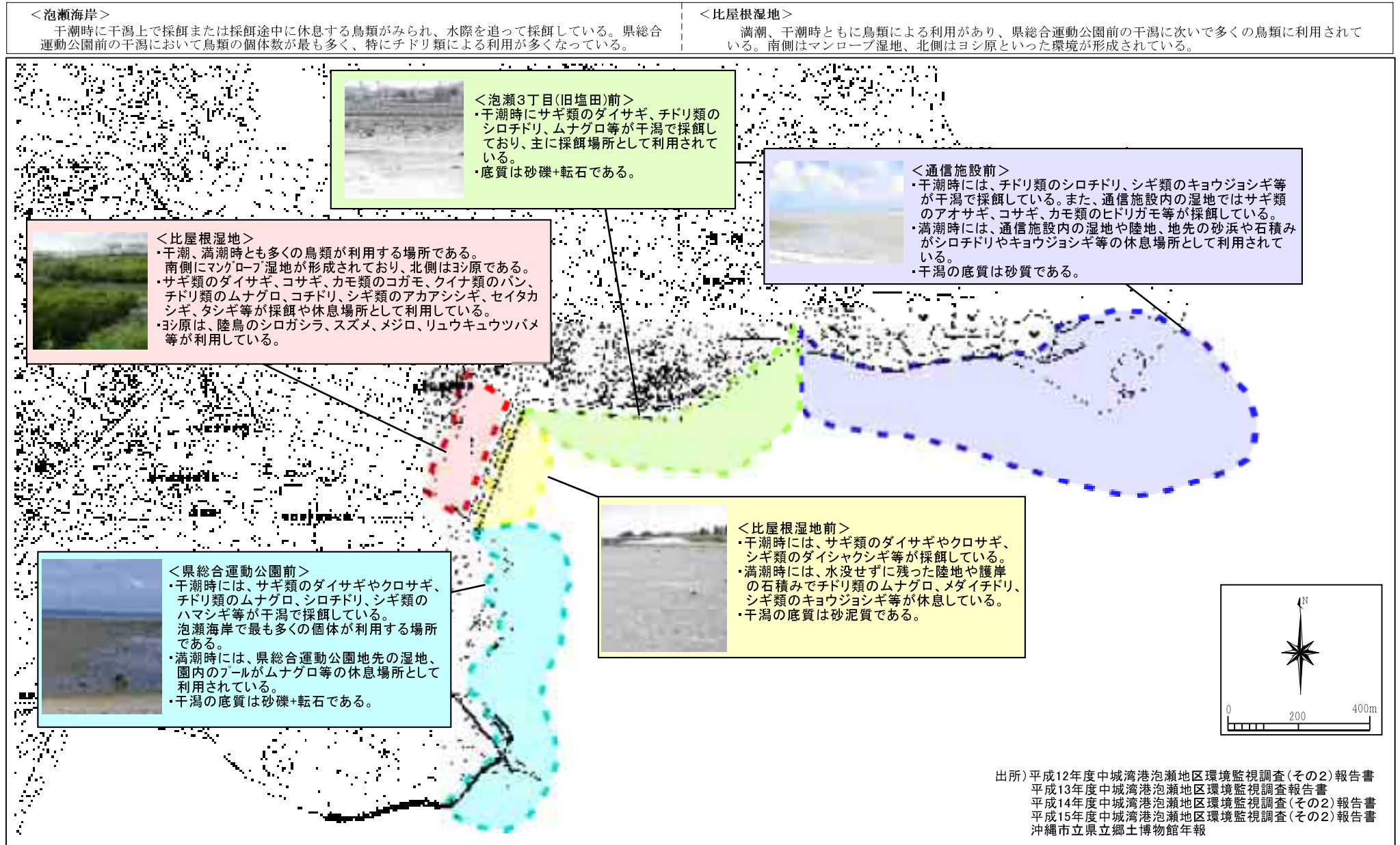
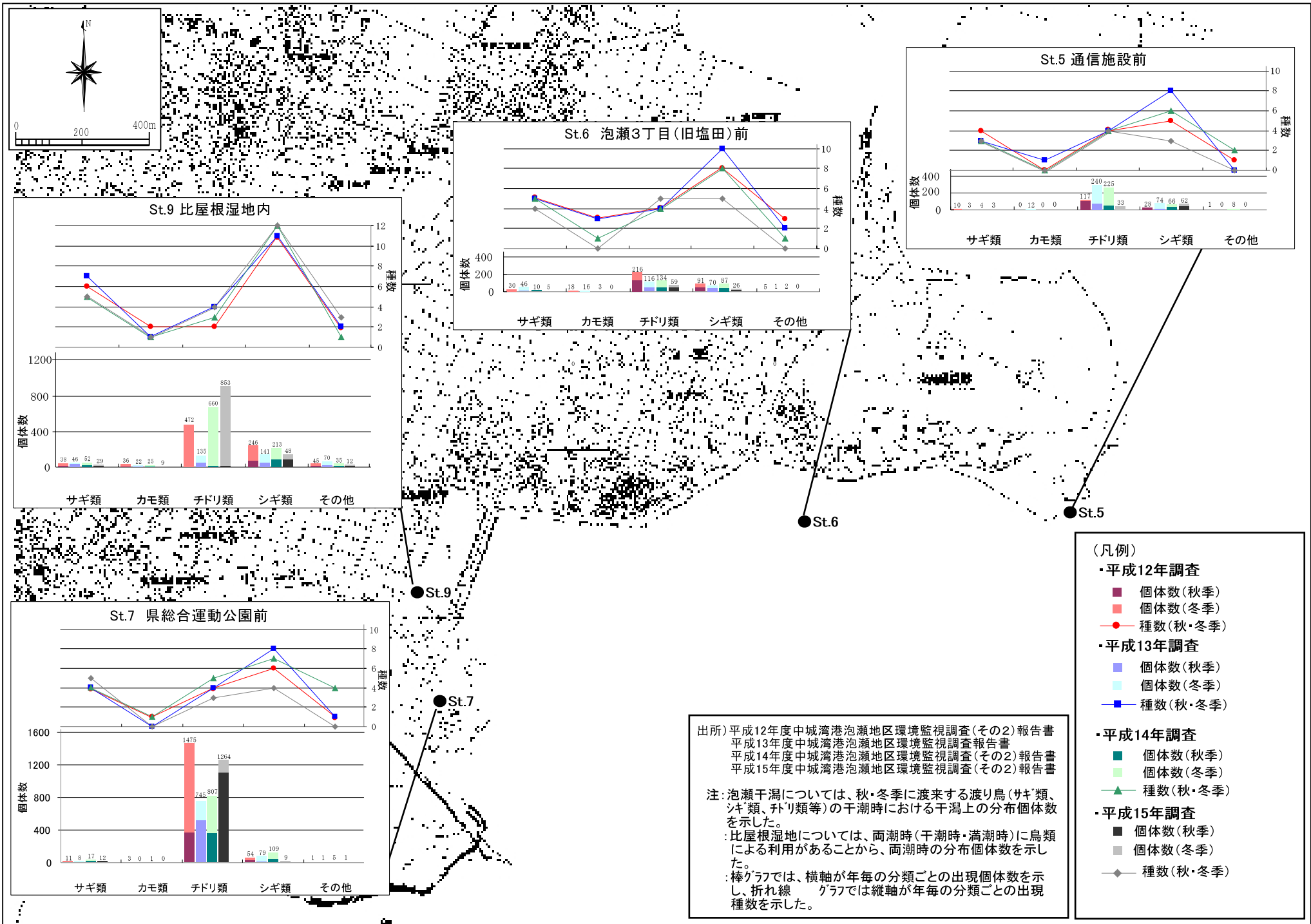


図2-3-1 鳥類の生息状況及び特徴

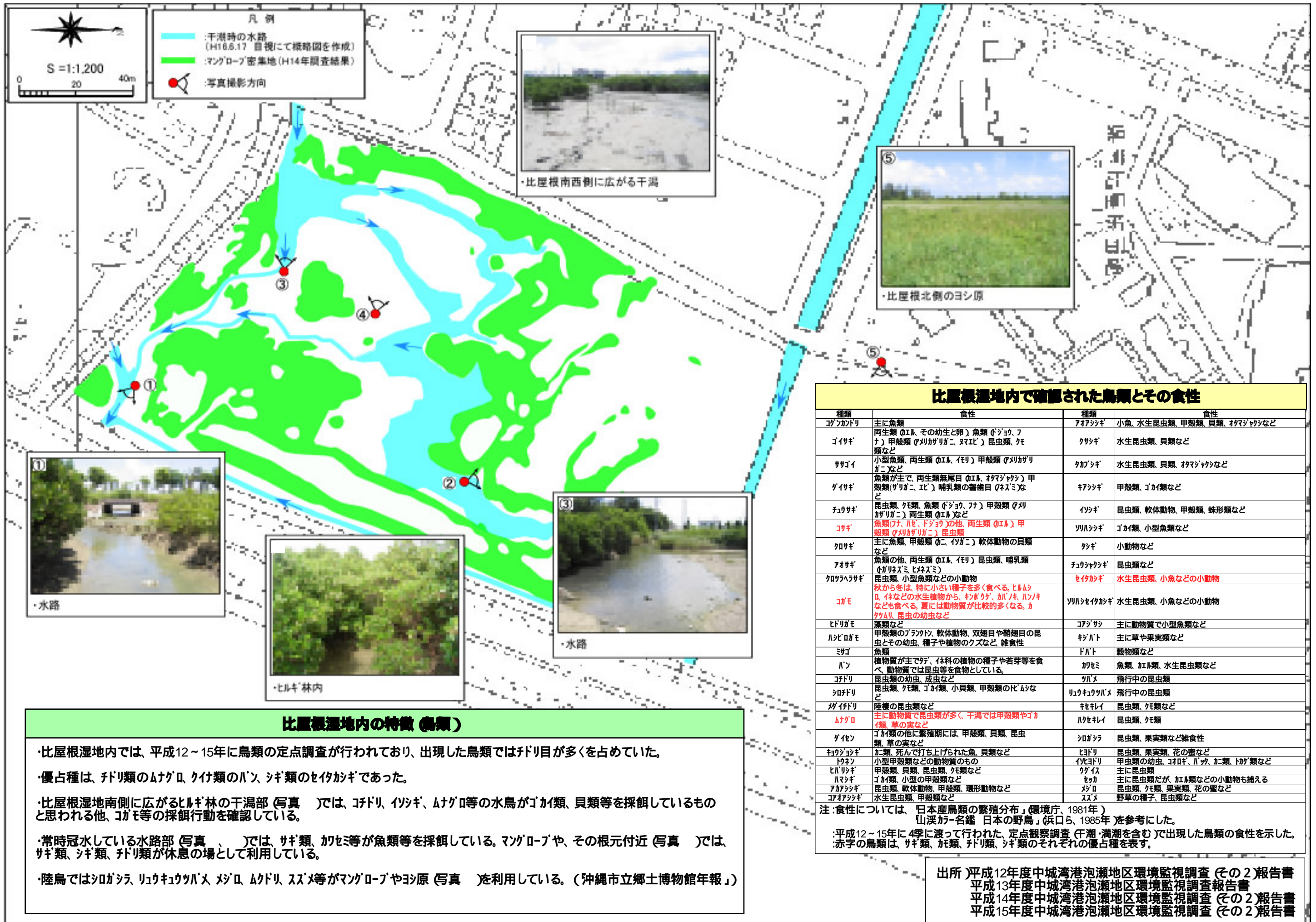


出所)平成12年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)報告書
 平成13年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査報告書
 平成14年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)報告書
 平成15年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)報告書

注:泡瀬干潟については、秋・冬季に渡来する渡り鳥(サギ類、シギ類、チドリ類等)の干潟時における干潟上の分布個体数を示した。
 :比屋根湿地については、両潮時(干潮時・満潮時)に鳥類による利用があることから、両潮時の分布個体数を示した。
 :棒グラフでは、横軸が年毎の分類ごとの出現個体数を示し、折れ線グラフでは縦軸が年毎の分類ごとの出現種数を示した。

- (凡例)
- ・平成12年調査
 - 個体数(秋季)
 - 個体数(冬季)
 - 種数(秋・冬季)
 - ・平成13年調査
 - 個体数(秋季)
 - 個体数(冬季)
 - 種数(秋・冬季)
 - ・平成14年調査
 - 個体数(秋季)
 - 個体数(冬季)
 - 種数(秋・冬季)
 - ・平成15年調査
 - 個体数(秋季)
 - 個体数(冬季)
 - 種数(秋・冬季)

図2-3-2 主な鳥類(サギ類、カモ類、チドリ類、シギ類)の分布状況



凡例
 干潮時の水路 (H16.6.17 自視にて概略図を作成)
 マングローブ密集地 (H14年調査結果)
 写真撮影方向

S=1:1,200
 0 20 40m



比屋根湿地内で確認された鳥類とその食性

種類	食性	種類	食性
コウノトリ	主に魚類	アオアシタビ	小魚、水生昆虫類、甲殻類、貝類、オタマジャクシなど
ゴイサギ	両生類 (カエル、その幼生と卵) 魚類 (ドジョウ、フナ) 甲殻類 (アマガサガニ、ヌマエビ) 昆虫類、クモ類など	クササギ	水生昆虫類、貝類など
ササギ	小型魚類、両生類 (カエル、イモリ) 甲殻類 (アマガサガニ) など	タカサギ	水生昆虫類、貝類、オタマジャクシなど
ダイサギ	魚類が主で、両生類無尾目 (カエル、オタマジャクシ) 甲殻類 (アマガサガニ、エビ) 哺乳類の齧歯目 (ネズミ) など	キアサギ	甲殻類、ゴカイ類など
チュウサギ	昆虫類、クモ類、魚類 (ドジョウ、フナ) 甲殻類 (アマガサガニ) 両生類 (カエル) など	イツギ	昆虫類、軟体動物、甲殻類、蜘蛛類など
コサギ	魚類 (フナ、アヒ、ドジョウ) の他、両生類 (カエル) 甲殻類 (アマガサガニ) 昆虫類	ヨリハシサギ	ゴカイ類、小型魚類など
クロサギ	主に魚類、甲殻類 (カニ、イソガニ) 軟体動物の貝類など	タツギ	小動物など
アオサギ	魚類の他、両生類 (カエル、イモリ) 昆虫類、哺乳類 (アマガサガニ、ヒメズミ)	チュウサギ	昆虫類など
クロツラヘラサギ	昆虫類、小型魚類などの小動物	セイヤカサギ	水生昆虫類、小魚などの小動物
コガモ	秋から冬は、特に小さい種子を多く食べる。ヒメムシ、イネなどの水生植物から、キンギョウ、カハ、ハシノギなども食べる。夏には動物質が比較的多くなる。カタクリ、昆虫の幼虫など	ヨリハシセイヤカサギ	水生昆虫類、小魚などの小動物
ヒドリガモ	藻類など	コアシサギ	主に動物質で小型魚類など
ハシロガモ	甲殻類のアラカト、軟体動物、両翅目や鞘翅目の昆虫とその幼虫、種子や植物のクズなど、雑食性	キバト	主に草や果実類など
ミソゴ	魚類	ドラト	穀物類など
バン	植物質が主で、イネ科の植物の種子や若芽を食べ、動物質では昆虫等を食物としている。	カササギ	魚類、カエル類、水生昆虫類など
コチドリ	昆虫類の幼虫、成虫など	ツバメ	飛行中の昆虫類
シロチドリ	昆虫類、クモ類、ゴカイ類、小貝類、甲殻類のヒメムシなど	リュウキュウツバメ	飛行中の昆虫類
マガイドリ	陸棲の昆虫類など	キセキレイ	昆虫類、クモ類など
ムナグロ	主に動物質で昆虫類が多く、干潟では甲殻類やゴカイ類、草の実など	ハセキレイ	昆虫類、クモ類
ダイゼン	ゴカイ類の他に繁殖期には、甲殻類、貝類、昆虫類、草の実など	シロガシラ	昆虫類、果実類など雑食性
キウジョウシギ	カエル、死んで打ち上げられた魚、貝類など	ヒヨドリ	昆虫類、果実類、花の蜜など
トネン	小型甲殻類などの動物質のもの	イセヨドリ	甲殻類の幼虫、ゴカイ、ハシノギ、カササギ、トカサギなど
ヒバリサギ	甲殻類、貝類、昆虫類、クモ類など	ウグイス	主に昆虫類
ハマサギ	ゴカイ類、小型の甲殻類など	セッカ	主に昆虫類だが、カササギなどの小動物も捕える
アオアシタビ	昆虫類、軟体動物、甲殻類、環形動物など	ムシロ	昆虫類、クモ類、果実類、花の蜜など
コアサギ	水生昆虫類、甲殻類など	スズメ	野草の種子、昆虫類など

比屋根湿地内の特徴 (鳥類)

- 比屋根湿地内では、平成12～15年に鳥類の定点調査が行われており、出現した鳥類ではチドリ目が多くを占めていた。
- 優占種は、チドリ類のムナグロ、クササギ類のバン、シギ類のセイヤカサギであった。
- 比屋根湿地南側に広がるヒルギ林の干潟部 (写真) には、コチドリ、イツギ、ムナグロ等の水鳥がゴカイ類、貝類等を採餌しているものと思われる他、コガモ等の採餌行動を確認している。
- 常時冠水している水路部 (写真) には、サギ類、カササギ等が魚類等を採餌している。マングローブや、その根元付近 (写真) には、サギ類、シギ類、チドリ類が休息の場として利用している。
- 陸鳥ではシロガシラ、リュウキュウツバメ、マガイ、ムナグロ、スズメ等がマングローブやヨシ原 (写真) を利用している。(沖縄市立郷土博物館年報)

注:食性については、「日本産鳥類の繁殖分布」(環境庁、1981年) 山溪カガ-名鑑「日本の野鳥」(浜口ら、1985年)を参考にした。
 ・平成12～15年に4季に渡って行われた、定点観察調査(干潮・満潮を含む)で出現した鳥類の食性を示した。
 ・赤字の鳥類は、サギ類、カササギ、チドリ類、シギ類のそれぞれの優占種を表す。

出所)平成12年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)報告書
 平成13年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査報告書
 平成14年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)報告書
 平成15年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)報告書

図2-3-3 比屋根湿地内の鳥類生息状況

2) オカヤドカリ類

① 既存資料結果

< 県総合運動公園前海岸 >

3年間の調査でナキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリの2種の生息が確認されている。宿貝の分布量は、生貝、空貝ともにリュウキュウウミナが多かった。

< 泡瀬3丁目(旧塩田)前海岸 >

3年間の調査でナキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、オカヤドカリの3種の生息が確認されている。宿貝の分布量は、生貝がカヤノミカニモリガイ、空貝がイボウミナが多かった。

< 通信施設前海岸 >

3年間の調査でナキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリの2種の生息が確認されている。宿貝の分布量は、カンギクガイが生貝、空貝とも多かった。

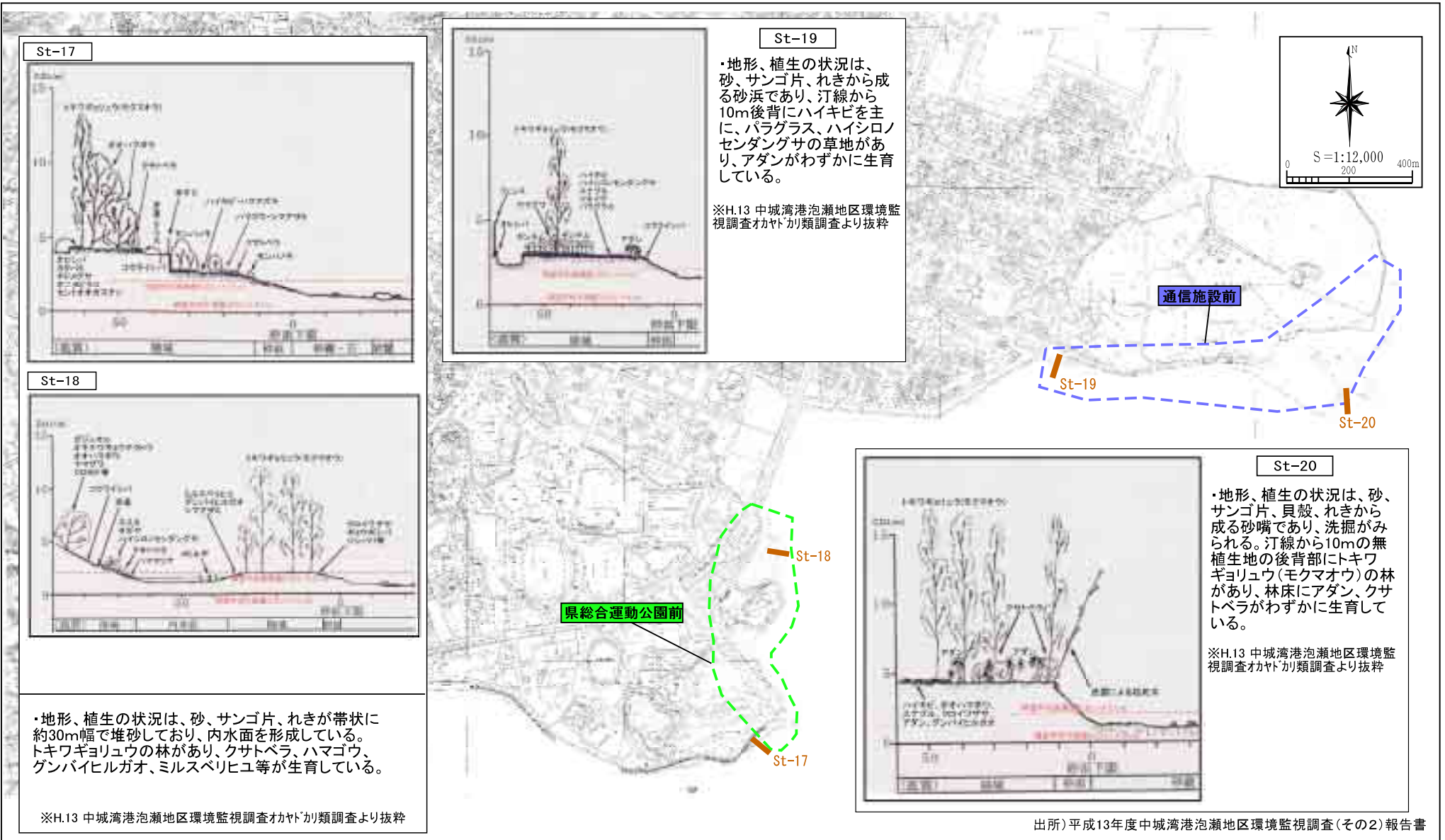
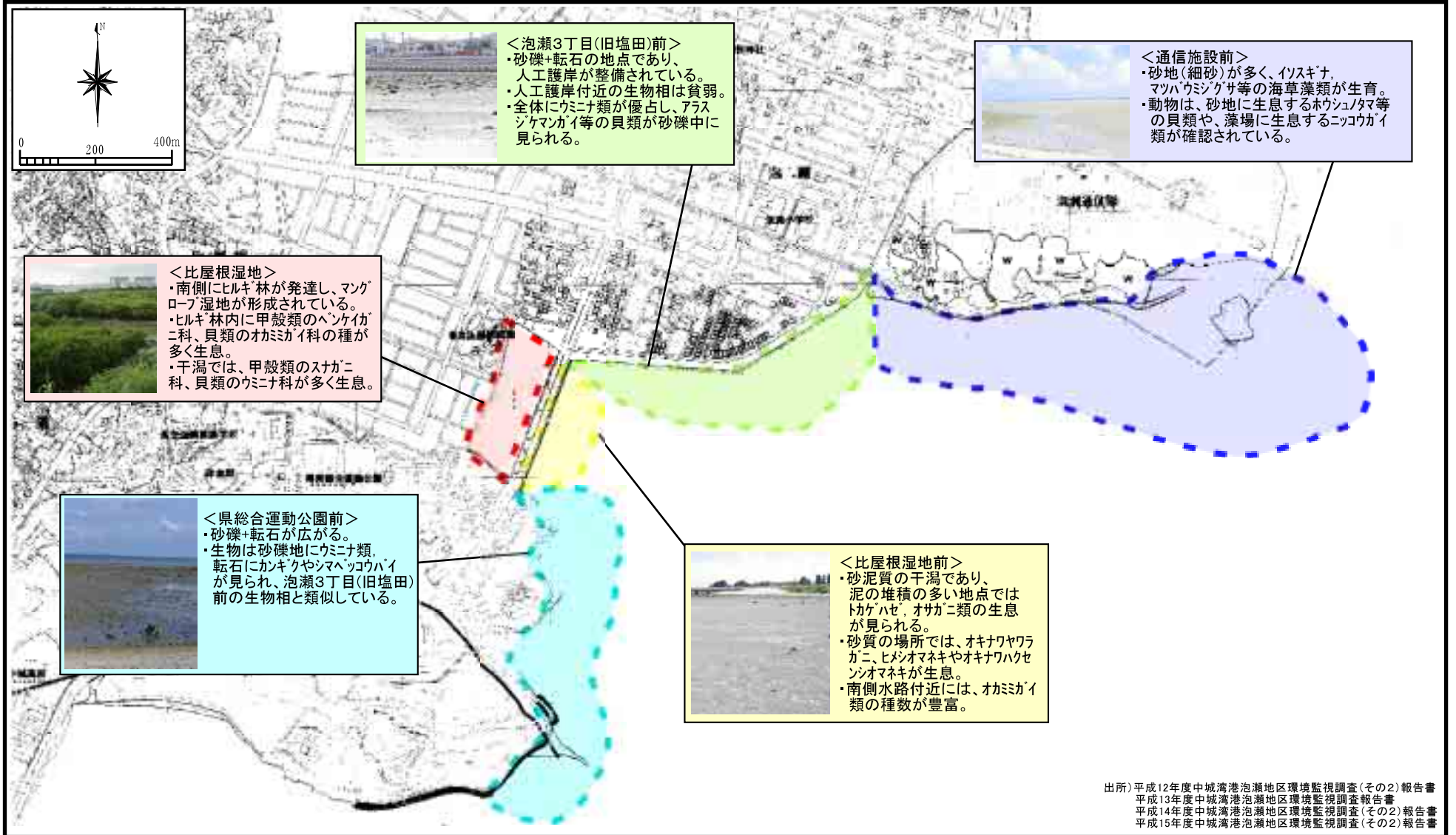


図2-3-4 オカヤドカリ類の生息地の地形・植生断面図

(2) 水生生物
1) 干潟生物

<p><泡瀬海岸> ・干潟生物は、底質と潮位に応じて出現する生物が異なる傾向にある。 藻場が見られる通信施設前では、藻場に特有なニッコウガイ類等が、砂地では、砂地に特有なカマガイ類、コマツガイ類、礫地ではカンキクやアラスシケマンガイ等が見られる。 また、通信施設前を除き、全域で内湾に生息するウミナ類の個体数が多い。</p>	<p><比屋根湿地> ・湿地内は、南側にヒルキ林が見られ、マングローブ湿地に特有な生物が多数確認されており、規模は小さいながらも多様な環境を有していると推測される。 ・藻類、<u>湿地中央部の砂泥地</u>の生物相、<u>北側のヨシ原と水路</u>での生物相は不明。</p>
--	---



出所)平成12年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)報告書
平成13年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査報告書
平成14年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)報告書
平成15年度中城湾港泡瀬地区環境監視調査(その2)報告書

図2-3-5 干潟生物の生息状況及び特徴

